

PATENT
1247-0466P

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: Shinichi MOMONAMI et al. Conf.:
Appl. No.: 09/970,683 Group: unassigned
Filed: October 5, 2001 Examiner: UNASSIGNED
For: FACSIMILE APPARATUS

LETTER

Assistant Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

January 7, 2002

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55(a), the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on the following application(s):

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2000-308228	October 6, 2000

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 02-2448 for any additional fee required under 37 C.F.R. §§ 1.16 or 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

BIRCH, STEWART, KOLASCH & BIRCH, LLP

By


Charles Gorenstein, #29,271

CG:11
1247-0466P

P.O. Box 747
Falls Church, VA 22040-0747
(703) 205-8000

Attachment



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年10月 6日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-308228

出 願 人

Applicant(s):

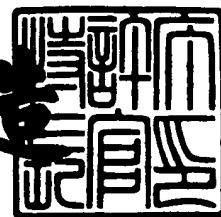
シャープ株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 9月10日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3083123

61812/OIR00455/US/JTR

【書類名】 特許願

【整理番号】 00J03984

【提出日】 平成12年10月 6日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04N 1/32

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 藤原 豊文

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 百南 伸一

【特許出願人】

【識別番号】 000005049

【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100075557

【弁理士】

【フリガナ】 サイキョウ

【氏名又は名称】 西教 圭一郎

【電話番号】 06-6268-1171

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 009106

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特 2 0 0 0 - 3 0 8 2 2 8

【包括委任状番号】 9006560

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ファクシミリ装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 発呼する相手先のファクシミリ番号を記憶する第 1 のテーブルと、

相手先に送付する付加情報を記憶する第 2 のテーブルと、

ユーザが前記第 1 のテーブルおよび第 2 のテーブルから相手先と付加情報とを個別に選択する選択手段と、

選択手段によって相手先と付加情報とが選択されると、選択された相手先と付加情報とを組み合わせ発呼する制御手段とを有することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 2】 前記付加情報は、サブアドレス (SUB) 信号、パスワード (PWD) 信号および選択ポーリング (SEP) 信号のうち少なくともいずれか一つを含むことを特徴とする請求項 1 記載のファクシミリ装置。

【請求項 3】 前記 SUB 信号、PWD 信号および SEP 信号は、CIAJ (日本通信機械工業会) で規定された F コードまたは同等の機能を有する信号に相当することを特徴とする請求項 2 記載のファクシミリ装置。

【請求項 4】 前記第 1 のテーブルには、ファクシミリ番号と相手先名とが記憶されており、前記第 2 のテーブルには、付加情報の特徴を明確にする情報が記憶されており、ユーザの選択時にファクシミリ番号または相手先名と付加情報の特徴を明確にする情報とを表示する表示手段を有することを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 つに記載のファクシミリ装置。

【請求項 5】 前記第 1 または第 2 のテーブルを用いて発呼する機能の解除および再開が可能であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 つに記載のファクシミリ装置。

【請求項 6】 前記第 2 のテーブルの全部あるいは一部を非公開にし、使用可能なユーザを確認した後、公開することを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 つに記載のファクシミリ装置。

【請求項 7】 前記第 2 のテーブルに相手先を指定する情報を登録し、第 2 の

テーブルを表示するときに、前記第 1 のテーブルで選択されたファクシミリ番号または相手先名に対応する第 2 のテーブルの付加情報を優先的に表示することを特徴とする請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 つに記載のファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、相手先のファクシミリ番号とフェーズ B で伝送する付加情報とを入力するファクシミリ装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

親展受信機能および中継同報機能などは、従来から重要な機能としてファクシミリ装置に搭載されている。しかし、これらの機能は、ファクシミリメーカーの独自機能として各社個別に独自手順を用いて実現している。これを各社共通の標準機能として実現させることを目的に開発された方法が F コードである。

【 0 0 0 3 】

ファクシミリ伝送手順のフェーズ B において、F コードで SUB 信号、PWD 信号および SEP 信号を送付する場合、ファクシミリ番号に引き続いて最大 2 0 桁のデータを入力する必要がある。ファクシミリ番号については、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル等でファクシミリ番号を簡単に選択する方法が確立しているが、SUB 信号などのデータ入力を容易に行う方法を提供する必要がある。

【 0 0 0 4 】

特開平 1 0 - 3 2 2 5 3 9 号公報記載のファクシミリ装置は、サブアドレス (SUB) 信号、パスワード (PWD) 信号および選択ポーリング (SEP) 信号のデータを、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルなどを記憶する電子電話帳と一緒に記憶する。これにより、電子電話帳より相手先を選択すると SUB 信号などが自動的に指定されることになる。この場合、電子電話帳で相手先を指定するとそれに付随する SUB 信号などファクシミリ伝送手順のフェーズ B で伝送するデータが一律に決定され、データ入力の手間が大幅に削減できる。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

前記特開平10-322539号公報記載のファクシミリ装置は、ファクシミリ番号とフェーズBで相手先に送付する信号とを対応付けて記憶しており、たとえば発信先に複数のボックスが設定されている場合、複数のユーザが同じファクシミリ装置を使用し、それぞれ同じ相手先の番号の異なるボックスに送信するときなど、個別に指示する必要がある。この場合、同じ発信先を複数件登録し、それぞれ異なったボックスを指定することである程度解決が可能であるが、一部のボックスの情報を秘密扱いするなど、多くの融通性のある取り扱いは不可能である。

【0006】

本発明の目的は、相手先に対して送信する付加情報の選択を容易にして利便性を向上させたファクシミリ装置を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明は、発呼する相手先のファクシミリ番号を記憶する第1のテーブルと、相手先に送付する付加情報を記憶する第2のテーブルと、ユーザが前記第1のテーブルおよび第2のテーブルから相手先と付加情報とを個別に選択する選択手段と、選択手段によって相手先と付加情報とが選択されると、選択された相手先と付加情報とを組み合わせる発呼する制御手段とを有することを特徴とするファクシミリ装置である。

【0008】

本発明に従えば、ユーザが第1のテーブルおよび第2のテーブルから選択した相手先と付加情報とを組み合わせる発呼するので、相手先に対して送信する付加情報の選択を容易に行うことができる。

【0009】

また本発明は、前記付加情報は、サブアドレス（SUB）信号、パスワード（PWD）信号および選択ポーリング（SEP）信号のうち少なくともいずれか一つを含むことを特徴とする。

【0010】

本発明に従えば、付加情報がサブアドレス（SUB）信号、パスワード（PWD）信号および選択ポーリング（SEP）信号のうち少なくともいずれか一つを含むので、親展、中継および掲示板などの機能を使用することができる。

【0011】

また本発明は、前記SUB信号、PWD信号およびSEP信号は、CIAJ（日本通信機械工業会）で規定されたFコードまたは同等の機能を有する信号に相当することを特徴とする。

【0012】

本発明に従えば、前記SUB信号、PWD信号およびSEP信号は、CIAJ（日本通信機械工業会）で規定されたFコードまたは同等の機能を有する信号に相当するので、Fコードを使用する他社メーカのファクシミリ装置と通信することができる。

【0013】

また本発明は、前記第1のテーブルには、ファクシミリ番号と相手先名とが記憶されており、前記第2のテーブルには、付加情報の特徴を明確にする情報が記憶されており、ユーザの選択時にファクシミリ番号または相手先名と付加情報の特徴を明確にする情報とを表示する表示手段を有することを特徴とする。

【0014】

本発明に従えば、ユーザの選択時にファクシミリ番号または相手先名と付加情報の特徴を明確にする情報とを表示するので、送信したい相手先および使用したい機能に応じた付加情報を容易に選択して送信することができる。

【0015】

また本発明は、前記第1または第2のテーブルを用いて発呼する機能の解除および再開が可能であることを特徴とする。

【0016】

本発明に従えば、第1または第2のテーブルを用いて発呼する機能の解除および再開が可能であるので、機密性の高い情報を保護することができる。

【0017】

また本発明は、前記第2のテーブルの全部あるいは一部を非公開にし、使用可

能なユーザを確認した後、公開することを特徴とする。

【0018】

本発明に従えば、前記第2のテーブルの全部あるいは一部を非公開にし、使用可能なユーザを確認した後に公開するので、機密性の高い情報に対してより詳細に保護することができる。

【0019】

また本発明は、前記第2のテーブルに相手先を指定する情報を登録し、第2のテーブルを表示するときに、前記第1のテーブルで選択されたファクシミリ番号または相手先名に対応する第2のテーブルの付加情報を優先的に表示することを特徴とする。

【0020】

本発明に従えば、第2のテーブルを表示するときに、前記第1のテーブルで選択されたファクシミリ番号または相手先名に対応する第2のテーブルの付加情報を優先的に表示するので、他の情報と識別することができ、容易に選択することができる。

【0021】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明の実施の一形態であるファクシミリ装置10の構成を示すブロック図である。ファクシミリ装置10は、網制御装置22、モデム23、制御装置24、ハンドセット25、印刷装置26、記憶装置27、コードレス用制御回路28、画像読取装置29、画像記憶装置210、表示装置211、ダイヤルキー212、操作キー213およびアンテナ214を含んで構成される。

【0022】

ファクシミリ装置10は、外部の電話回線網21と網制御装置22で接続されている。網制御装置22は、電話回線網21の状況を監視するとともに、回線をモデム23側とハンドセット25側、コードレス用制御回路28側とに切替える。モデム23は、画像のデジタル信号を電話回線網21に適したアナログ信号に変調するとともに、電話回線網21のアナログ信号を印刷用のデジタル信号に復調する。印刷装置26は、受信した画像または画像読取装置29によって読取ら

れた画像の印刷を行うユニットで、サーマル方式、電子写真方式およびインクジェット方式などが用いられる。記憶装置 2 7 は、ファクシミリ装置 1 0 を動作させるためのプログラム、第 1 のテーブルおよび第 2 のテーブルなどが記憶されている。画像読取装置 2 9 は、ファクシミリ送信およびコピーのための原稿読取装置であり、レンズと CCD ラインセンサの組合せによる縮小読取方式およびロッドレンズアレーを用いた密着センサ方式などが用いられる。画像記憶装置 2 1 0 は、読取った画像および受信した画像を記憶するためのユニットで、このユニットを備えることで、多くの複雑な機能、たとえば受信した画像の転送や同報、印刷用紙切れのときの代行受信、メモリ送信などが可能となる。さらに本発明の機能によって送受信される画像の記憶にもこの画像記憶装置 2 1 0 が用いられ、被呼側のファクシミリ装置では、後述する各画像ボックスがこの画像記憶装置 2 1 0 に割当てられる。

【 0 0 2 3 】

制御装置 2 4 は、選択された相手先と付加情報とを組み合わせで発呼する制御手段であり、記憶装置 2 7 に記憶されているプログラムを用いて、操作キー 2 1 3、ダイヤルキー 2 1 2 からの入力情報、装置の各ユニットからの状態を示す情報、電話回線網 2 1 からの信号の情報をなど元に、装置全体の動作を決定し、装置全体に指令を与え、さらに表示装置 2 1 1 に表示の指示を出す。また、伝送時間を短縮するための画像データの圧縮、圧縮された画像信号を元のピクセル列情報に戻す伸長を行う。操作キー 2 1 3、ダイヤルキー 2 1 2 は、使用者が情報、指示を装置に入力し、各テーブルから相手先のファクシミリ番号および付加情報を選択するための選択手段である。表示装置 2 1 1 は、使用者に対して操作方法、第 1 および第 2 のテーブルの内容などを表示する表示手段であり、表示装置 2 1 1 と操作キー 2 1 3、ダイヤルキー 2 1 2 を用いてファクシミリ装置の各種パラメータの設定が可能となる。本発明における各テーブルのデータ入力も表示装置 2 1 1 の表示内容に従って、操作キー 2 1 3、ダイヤルキー 2 1 2 から対話的に入力することで、公知の技術を用いてテーブル作成が可能である。ハンドセット 2 5 は、電話通話のための受話器、送話器が装備されている。ファクシミリ装置 1 0 は、1 台あるいは、複数台の子機と接続が可能で、コードレス用制御回路

28は、図示されていないコードレス子機を制御する装置であり、子機との接続のための通信路の探索、接続の確立、通話、電波発信受信のためのチューナ等を含んでいる。アンテナ214は、子機との総受信を行う電波の発信、受信が行われる。

【0024】

図2は、ファクシミリ装置の伝送制御手順を示す図である。図に示す手順は、1ページの画像を発呼ファクシミリ装置41から被呼ファクシミリ装置42へ送信する最も基本的な手順である。まず、発呼ファクシミリ装置41がダイヤル信号で発呼43すると、被呼ファクシミリ装置42は、回線を捕捉して、応答44する。発呼ファクシミリ装置41は、CNG（コーリングトーン）45を出し、ファクシミリ通信であることを被呼ファクシミリ装置42に通知する。被呼ファクシミリ装置42は、これに対し、被呼局識別信号46を出し、この被呼局識別信号46の中のDIS（デジタル識別信号）でSUB（サブアドレス）信号およびPWD（パスワード）信号の受信能力があることを通知する。この被呼局識別信号46のうち、NSF（非標準機能識別信号）、CSI（被呼端末識別信号）は、オプション信号であり、ここでは説明を省略する。

【0025】

被呼局識別信号46のDISでSUB信号、PWD信号の受信能力があると判断した発呼ファクシミリ装置41は、次の命令情報47であるDCS（デジタル命令信号）に合わせてSUB信号と必要に応じてPWD信号とを被呼ファクシミリ装置42に送付する。TSI（送信端末識別信号）、SIDは、オプション信号であり、ここでは説明を省略する。その後、画像を通信するための回線状態にモデムの特性を合わせ込むために、発呼ファクシミリ装置41がTCF（トレーニング信号）48を出し、被呼ファクシミリ装置42からトレーニングが成功したことを示すCFR（受信準備確認信号）49を受けると、それに続いて発呼ファクシミリ装置41から画像データであるPIX（ピクセルデータ）410を送信する。通信が完了すると発呼ファクシミリ装置41から接続を遮断するためのEOP（手順終了信号）411を出し、被呼ファクシミリ装置42からMCF（メッセージ確認信号）412を受け取り、DCN（切断命令信号）413を出し

て回線を切断する。

【 0 0 2 6 】

S E P (選択ポーリング) 信号は、発呼側から被呼側に対して画像の送信を要求する選択ポーリングで利用されるため、図 4 に示す手順とは少し異なった手順となるが、類似した手順で発呼ファクシミリ装置 4 1 から被呼ファクシミリ装置 4 2 に送付される。

【 0 0 2 7 】

図 3 は、被呼ファクシミリ装置が記憶している管理テーブルである。ただし、各セルには、ファクシミリ番号等の情報が記憶されているが、ここでは、図を見やすくするため、記入を省略している。

【 0 0 2 8 】

ボックス番号 3 4 は、被呼側のファクシミリ装置の画像記憶装置 2 9 に画像を記憶するためのボックスを区別する。ボックスの機能は、親展、中継、掲示板、回覧の 4 種類ある。発呼ファクシミリ装置から送付された S U B 信号の内容と一致するサブアドレスが S U B 欄 1 1 に記憶されているボックスを選択し、もし P W D 欄 1 2 にパスワードが記憶されている場合は、発呼側から送付された P W D 信号のパスワードと一致するかを確認し、一致している場合のみ送付されてきた画像データをボックスに記憶する。

【 0 0 2 9 】

選択されたボックスの機能欄 1 5 が親展 1 8 であれば、親展ボックス欄 3 1 に示された親展ボックスの番地に画像データを移す。親展 1 8 のときは、親展ボックスの場所、同報のときは、同報の相手先番号が同報先、親展ボックス欄 3 1 に記憶されている。記憶先欄 3 2 には、受信ボックスの記憶番地が記憶されている。親展の場合、被呼ファクシミリ装置で I D コードを入力し、これが I D コード欄 3 3 の値と一致した場合のみ印刷するため、親展機能が働き、秘密保持が可能となる。

【 0 0 3 0 】

指定されたボックスが中継 1 9 の場合、受信した画像データを同報先、親展ボックス欄 3 1 に記憶されている宛先に再送する必要がある。同報先、親展ボック

ス欄 3 1 には、同報する相手先のファクシミリ番号などが記憶されており、その宛先に自動発信を行い画像データを送信する。

【 0 0 3 1 】

指定されたボックスが掲示板 1 1 0 の場合、すでに記憶されている記憶先 3 2 の画像データを発呼ファクシミリ装置 4 1 に伝送する。この場合、発呼ファクシミリ装置 4 1 から受信した S E P 信号の内容が図 3 の S E P 欄 1 3 の値と一致した場合のみ被呼ファクシミリ装置 4 2 は、画像データを発呼ファクシミリ装置 4 1 に伝送する。これにより掲示板 1 1 0 の機能を持つことになる。

【 0 0 3 2 】

図 4 は、本発明の第 2 のテーブルを示す図である。発呼ファクシミリ装置 4 1 は、図 2 で示した手順信号の中に、S U B 信号、P W D 信号あるいは、S E P 信号を組み込んで被呼ファクシミリ装置 4 2 に伝送する必要がある。相手先のファクシミリ番号については、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルなどですでに第 1 のテーブルに記憶されている番号を選択する方法が確立している。また、表示装置 2 1 1 に第 1 のテーブルの内容である相手先のファクシミリ番号および相手先名などを複数表示し、その中から相手先を選択して発呼する方法も確立している。本発明では、相手先名およびファクシミリ番号を記憶させた第 1 のテーブルとは別に、図 4 に示す第 2 のテーブルを表示し、ユーザは、この中から必要とする付加情報を選択して送信する。これにより、容易に付加情報を選択することができる。たとえば、第 1 のテーブルの内容である相手先のファクシミリ番号または相手先名が表示装置 2 1 1 に表示されるので、ユーザは、ダイヤルキー 2 1 2、操作キー 2 1 3 を用いてファクシミリを送信したい相手先を選択する。相手先が選択されると、第 2 のテーブルの内容のうち、付加情報が表示装置 2 1 1 に表示される。ユーザが送信したい付加情報を選択すると、制御装置 2 4 は、選択された相手先に対して付加情報を送信する。

【 0 0 3 3 】

また、第 2 のテーブルの内容を表示する場合に、相手先の機能が機能欄 1 5 に、親展、中継、掲示板のように記憶されていると、この機能も同時に表示する。同じ親展でも複数ある場合、親展 1、親展 2 のごとく識別できるように記憶、表

示することも可能である。これによって、ユーザは、使用したい機能に応じた付加情報を選択して送信することができる。

【0034】

発呼ファクシミリ装置41を複数のユーザが使用する場合、あるいは、本発明による付加情報の選択および送信などの機能を必要とするユーザが不在の場合は、これらの機能を使用しないように設定する必要がある。このような場合は、本発明の機能を解除することができる。解除または再開するための方法は、たとえばIDコードおよびパスワードなどを予め設定しておき、ダイヤルキー212および操作キー213を用いて入力する。さらに、本発明の機能全体を解除するのではなく、第2のテーブル全部あるいはその一部だけを非公開にすることができる。公開したくない情報に対しては、第2のテーブルの秘ID欄14にIDコードを登録する。秘ID欄14にIDコードが登録されているボックスについては、付加情報の選択時に表示装置211に表示しないので選択することができず、特に機密性の高い相手先の情報を保護することができる。非公開の情報を使用可能なユーザが秘ID欄14に登録されているIDコードをダイヤルキー212および操作キー213などから入力することで情報を公開し、選択および送信することができる。

【0035】

第2のテーブルにファクシミリ番号または相手先名など相手先を指定する情報を登録する欄16を設け、ここに相手先のファクシミリ番号などを登録する。ユーザが第1のテーブルからファクシミリ番号などを選択すると、選択したファクシミリ番号または相手先名などが欄16に登録されているファクシミリ番号または相手先名などと一致したボックスの情報を優先的に表示する。たとえば、表示色および字体などを他の情報と異ならせる、アンダーラインを付ける、文字を反転させるなどによって他の情報と識別することができ、容易に選択することができる。

【0036】

上記のように、ファクシミリ装置のみについて説明したが、本発明はファクシミリ装置だけでなく、ファクシミリ機能を有する通信装置および情報処理装置に

適用してもよい。

【 0 0 3 7 】

【発明の効果】

以上のように本発明によれば、相手先に対して送信する付加情報の選択を容易に行うことができるとともに利便性のある使用法が提供できる。

【 0 0 3 8 】

本発明によれば、親展、中継および掲示板などの機能を使用することができる。

【 0 0 3 9 】

本発明によれば、Fコードを使用する他社メーカーのファクシミリ装置と通信することができる。

【 0 0 4 0 】

本発明によれば、送信したい相手先および使用したい機能に応じた付加情報を容易に選択して送信することができる。

【 0 0 4 1 】

本発明によれば、機密性の高い情報に対して詳細に保護することができる。

本発明によれば、前記第1のテーブルで選択されたファクシミリ番号または相手先名に送信したい付加情報を優先的に表示するので、他の情報と識別することができ、容易に選択することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の一形態であるファクシミリ装置10の構成を示すブロック図である。

【図2】

ファクシミリ装置の伝送制御手順を示す図である。

【図3】

被呼ファクシミリ装置が記憶している管理テーブルである。

【図4】

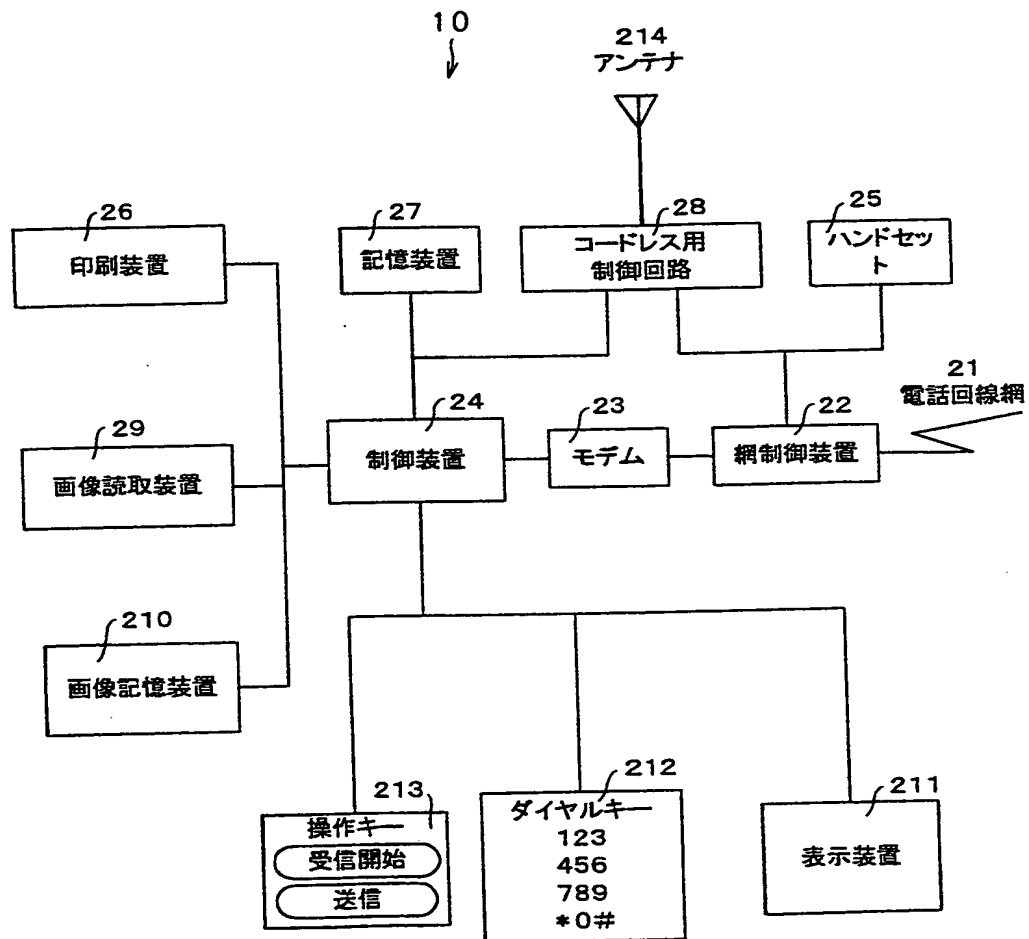
本発明の第2のテーブルを示す図である。

【符号の説明】

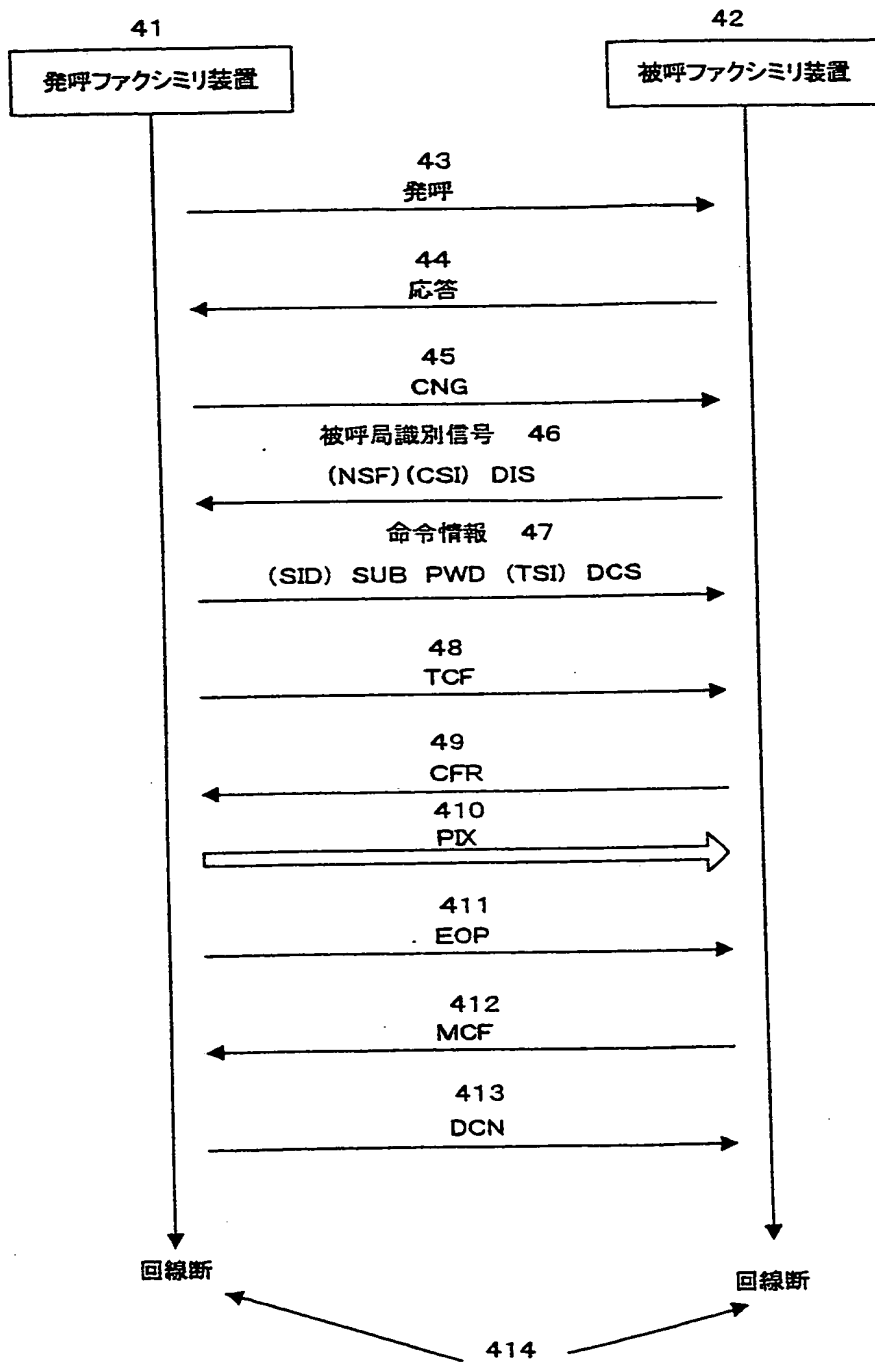
- 1 0 ファクシミリ装置
- 1 1 SUB信号欄
- 1 2 PWD信号欄
- 1 3 SEP信号欄
- 1 5 機能欄
- 2 2 網制御装置
- 2 3 モデム
- 2 4 制御装置
- 2 5 ハンドセット
- 2 6 印刷装置
- 2 7 記憶装置
- 2 8 コードレス用制御回路
- 2 9 画像読取装置
- 2 1 0 画像記憶装置
- 2 1 1 表示装置
- 2 1 2 ダイヤルキー
- 2 1 3 操作キー
- 2 1 4 アンテナ

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【図3】

34 No.	11 SUB	12 PWD	13 SEP	15 機能	31 同報先 親展BOX	32 記憶先	33 ID コード
01			18	親展			
02			19	中継			
03				掲示板			
04			18	親展	110		
05			19	中継			
06				掲示板			
07							

【図4】

17 No.	11 SUB	12 PWD	13 SEP	14 秘ID	15 機能	16 電話番号
01					親展	18
02					中継	19
03					掲示板	
04				110	親展	18
05					中継	19
06					掲示板	
07						

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 相手先に対して送信する付加情報の選択を容易にして利便性を向上させたファクシミリ装置を提供する。

【解決手段】 記憶装置 2 7 に記憶されている第 1 のテーブルの内容である相手先のファクシミリ番号または相手先名が表示装置 2 1 1 に表示される。ユーザは、ダイヤルキー 2 1 2、操作キー 2 1 3 を用いてファクシミリを送信したい相手先を選択する。相手先が選択されると、記憶装置 2 7 に記憶されている第 2 のテーブルの内容のうち、選択された相手先に対応した機能または付加情報が表示装置 2 1 1 に表示される。ユーザが使用したい機能または送信したい付加情報を選択すると、制御装置 2 4 は、選択された相手先に対して付加情報を送信する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005049]

1. 変更年月日 1990年 8月29日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

氏 名 シャープ株式会社